

福岡県立高校入試問題を活用した学習資料 ～ 未来への架け橋 《令和4年度版》 ～



まずは自分で問題を解いてから、下の解説を読みましょう（問題の内容を学習する学年も示していますので、中学1・2年生は該当学年の問題を解いてみましょう）。
解説には、■内に解決する際のポイントを示していますので、参考にして再挑戦してみましょう！

1

花子さんは、わが国の古代から近代の各時代の特色について、政治と人々の暮らしをカードにまとめました。カードをみて、各問に答えよ。

〈カード〉

古代	中世	近世	近代
<input type="radio"/> ① <small>りつりょう</small> 律令に基づいた政治が行われた。 <input type="radio"/> [ア]	<input type="radio"/> ② 武士による支配のしくみが整えられた。 <input type="radio"/> [イ]	<input type="radio"/> ③ 幕府による大名支配のしくみが整えられた。 <input type="radio"/> [X]	<input type="radio"/> アジアで最初の ④ <small>りっけん</small> 立憲制国家となった。 <input type="radio"/> [ウ]

問5 (2) 花子さんは近世の社会の様子に興味をもち、資料Ⅱをもとに、カードの [X] に農村の変化をまとめた。 [X] にあてはまる内容を、「自給自足に近い生活から、」の書き出しで、「商品作物」と「購入」の語句を使って書け。

〈資料Ⅱ〉近世の農村の様子

- 百姓は、なな菜種を作り、それを売って肥料代などにあてるのである。
- 百姓も、日頃の買い物は、ぜに銭で支払いをすませるようになった。

おおくらながつね こうえきこくさんこう おきめい そらい
(大蔵永常「広益国産考」、获生徂徠「政談」から作成)

やや難



2年生の学習内容です。



[X]には、「農村が変化したあとの状態」が入ります。「自給自足に近い生活」が、近世になってどう変わったかを資料Ⅱから読みとろう。

[1] 「自給自足に近い生活」とはどのような生活か考える。

生活などに必要な物資を、自ら生産してまかなう生活。

[2] 「自給自足ではなくなった生活」の様子を資料Ⅱから探す。

〈資料Ⅱ〉近世の農村の様子

生活などに必要な物資を、自ら生産してまかなう生活。

変化

○ 百姓は、^{な たお}菜種を作り、それを売って肥料代などにあてるのである。

○ 百姓も、日頃の買い物は、^{ぜに}銭で支払いをすませるようになった。

おおぐらながつね こうえきこくさんこう おきゅうそらい
(大蔵永常「広益国産考」、荻生徂徠「政談」から作成)

[3] 「商品作物」、「購入」の語句をつないで文章をつくる。

(答) (例) (自給自足に近い生活から、) 商品作物を売って、必要な品物を貨幣で購入するという生活に変化していった。

2 勇平さんは、わが国で新しい紙幣が発行されることを知り、紙幣に新しく描かれる人物と過去に描かれた人物について、カードにまとめた。カードをみて、各問に答えよ。

〈カード〉

①文化の発展に貢献した人		経済の発展に貢献した人	国際関係の発展に貢献した人
<p>つだゆめこ 津田梅子</p> <p>学校教育が普及する中、女子教育の発展に尽力し、女子英学塾を設立した。</p>	<p>(A)</p> <p>はしやうふう けっせいりやうほう 破傷風の血清療法 の発見など、世界的にも最先端の研究を行った。</p>	<p>しよなわえいいち 渋沢栄一</p> <p>銀行業や②紡績業など、様々な業種で、数百の企業の設立に関わった。</p>	<p>にとべいなぞう 新渡戸稲造</p> <p>事務局次長として活躍した</p> <p>③国際連盟の平和の理念は ④国際連合に受け継がれた。</p>

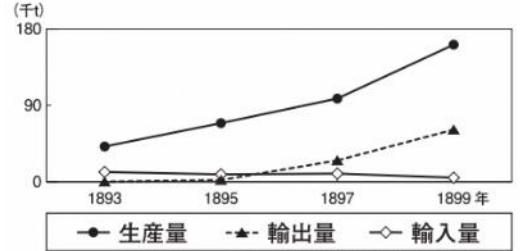
問2 下線部②について、資料Ⅰにみられる変化を輸出量と輸入量に着目して書け。また、その変化の理由の一つを、資料Ⅰから読み取り、「軽工業」の語句を使って書け。

やや難



3年生の学習内容です。

〈資料Ⅰ〉わが国の綿糸の生産量と輸出入量の変化





次のように解きます。

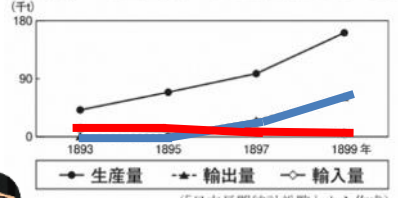
資料 I から、綿糸の生産量と輸出入量の折れ線の傾きに着目して、変化を読み取ろう。

[1] 「変化」を問われているので、資料 I から「輸出量」「輸入量」の変化を読み取る。

(綿糸の輸出量) 増加
 (綿糸の輸入量) 減少

1897年に輸出量の方が多くなっている。

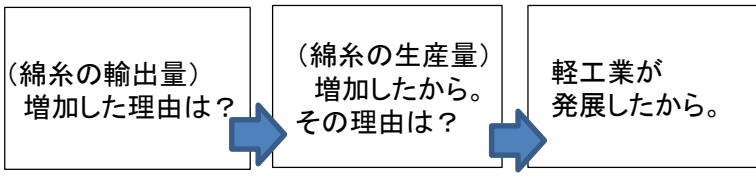
〈資料 I〉わが国の綿糸の生産量と輸出入量の変化



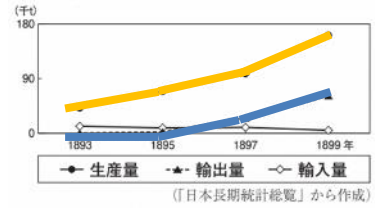
この場合、「多くなった。」では不十分です。「上回るようになった。」が適切です。

(答) (例) 綿糸の輸出量が輸入量を上回るようになった。

[2] 輸出量が増加した理由を資料 I から考える。




〈資料 I〉わが国の綿糸の生産量と輸出入量の変化





[3] 「軽工業」の語句をつかって理由をまとめる。

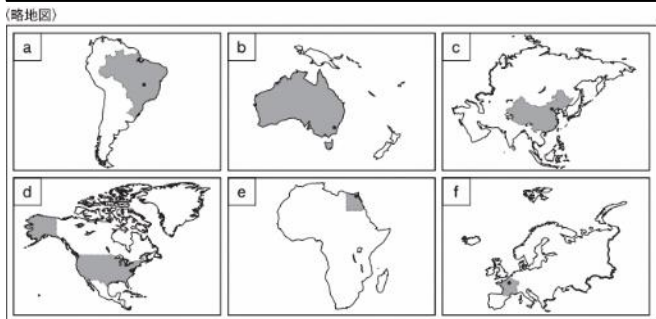
(答) (例) 軽工業が発展し、綿糸が大量に生産されるようになったから。

福岡県立高校入試問題を活用した学習資料 ～ 未来への架け橋 《令和4年度版》 ～

3 次郎さんは、世界の州や国の特色を調べ、資料集を作成した。略地図の a～f は、世界の六つの州を示し、表の6か国は、それぞれの州の  で示した国である。資料集をみて、各問に答えよ。

問4 下の  内は、次郎さんが、中国の工業の特色について調べ、説明したものである。
 [] にあてはまる内容を、「経済特区」と「受け入れる」の語句を使って書け。
 また、資料Ⅱ、Ⅲの **ア～カ** は、それぞれの州の  で示した6か国のいずれかを示す。中国にあてはまるものを一つ選び、記号を書け。

中国は、[] など、工業化を進めてきたが、沿岸の都市部と内陸の農村部との経済格差が、大きくなっているという課題がある。

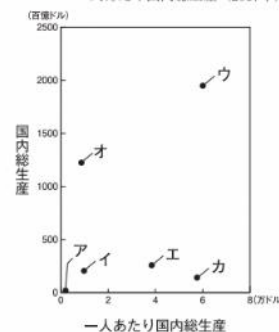


a～fの国法。縮尺は同じではない。～は州境を示す。a～fの●は、それぞれの○で示す国の首都を示す。

(資料Ⅱ) 6か国の輸出総額に占める割合の第1位の品目と輸出総額の変化

国	1987年		2017年	
	輸出品目第1位 (輸出総額に占める割合)	輸出総額 (百万ドル)	輸出品目第1位 (輸出総額に占める割合)	輸出総額 (百万ドル)
ア	繊維品 (26.9%)	2 037	野菜・果実 (10.6%)	25 943
イ	機械類 (10.1%)	26 229	大豆 (11.8%)	217 739
ウ	機械類 (28.4%)	245 421	機械類 (24.9%)	1 545 609
エ	機械類 (20.6%)	143 401	機械類 (19.8%)	523 385
オ	繊維品 (15.1%)	39 437	機械類 (43.3%)	2 263 371
カ	石炭 (13.4%)	26 486	鉄鉱石 (21.1%)	230 163

(資料Ⅲ) 6か国の国内総生産と一人あたり国内総生産(2017年)



(資料Ⅱ、Ⅲは、2019/20年版「世界国勢図会」等から作成)

やや難



1年生の学習内容です。



中国は工業化したことで経済成長したことを想起し、資料Ⅱ、資料Ⅲを読み取ろう。

[1] 資料Ⅱ、Ⅲで使われている用語の関係を整理する。

【輸出総額】

国内で作り出されたものを外国に売って得たお金の総額。

【国内総生産】

国内で作り出された財・サービスの付加価値の総額。

中国

工業化により輸出総額、国内総生産が増えた。

[2] 経済特区の仕組みを想起し、中国の工業化と関連づける。

(答) (例) 経済特区を設け、外国企業を受け入れる

【経済特区】

海外の資本や技術を導入するために開放した地域のこと。

[3] 資料Ⅱ、Ⅲから、輸出総額や輸出品目に着目し、中国を探す。

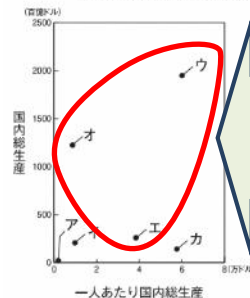
《資料Ⅱ》6か国の輸出総額に占める割合の第1位の品目と輸出総額の変化

国	1987年		2017年	
	輸出品目第1位 (輸出総額に占める割合)	輸出総額 (百万円)	輸出品目第1位 (輸出総額に占める割合)	輸出総額 (百万円)
ア	繊維品 (26.9%)	2.00	野菜・果実 (10.6%)	25.943
イ	機械類 (10.1%)	26.22	大豆 (11.8%)	217.739
ウ	機械類 (28.4%)	245.42	機械類 (24.9%)	1,545.609
エ	機械類 (20.6%)	143.40	機械類 (19.8%)	523.385
オ	繊維品 (15.1%)	39.43	機械類 (43.3%)	2,263.371
カ	石炭 (13.4%)	26.48	鉄鉱石 (21.1%)	230.163

表の左(1987年)と表の右(2017年)を比較すると、ア～カ全ての国の輸出総額が増えている。

表の右(2017年)の輸出品目が「機械類」の国は、ウ、エ、オ。

《資料Ⅲ》6か国の国内総生産と一人あたり国内総生産(2017年)



問題文の「経済格差が…」の記述から国内総生産は高いが、一人あたりの国内総生産が高くない国 → オ

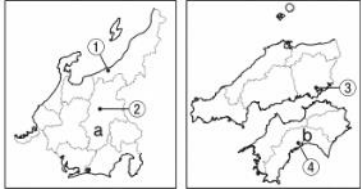
資料Ⅲとも関連付けて考えると・・・

(答) オ

4

洋一さんは、日本の様々な地域の特色について調べ、資料集を作成した。資料集をみて、各問に答えよ。

中部地方と中国・四国地方の自然環境と農業

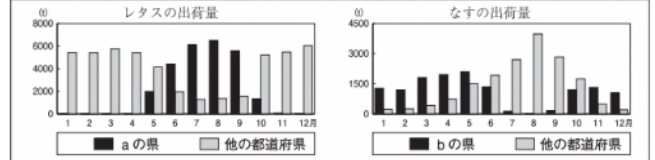


〈資料Ⅲ〉①～④の都市の月平均気温と月降水量

都市	月平均気温(℃)		月降水量(mm)	
	1月	7月	1月	7月
あ	6.3	26.7	58.6	328.3
い	-0.4	23.6	35.9	138.4
う	4.9	27.2	34.2	160.9
え	2.4	24.6	419.1	210.6

(令和3年「理科年表」から作成)

〈資料Ⅳ〉東京都中央卸売市場へのレタスとなすの出荷量(2019年)



(東京都中央卸売市場ホームページから作成)

- 問3 中部地方と中国・四国地方の自然環境と農業について、(1)、(2)に答えよ。
- (1) 略地図の①～④は、資料Ⅲのあ～えのいずれかの都市を示している。②の都市にあてはまるものを、あ～えから一つ選び、記号を書け。
- (2) 略地図のa、bの県に共通する出荷時期の特色を、資料Ⅳから読み取って書け。

やや難



2年生の学習内容です。

ポイント

次のように解きます。



中部地方も、中国・四国地方も、大きく三つの気候に分けられるという共通性を想起します。資料Ⅲからは、他と比べて高かったり低かったりする数字を見出そう。

[1] 中部地方と、中国・四国地方の気候条件を想起し、あてはまる都市を探す。



〈資料Ⅲ〉①～④の都市の月平均気温と月降水量

都市	月平均気温(℃)		月降水量(mm)	
	1月	7月	1月	7月
あ	6.3	26.7	58.6	328.3
い	-0.4	23.6	35.9	138.4
う	4.9	27.2	34.2	160.9
え	2.4	24.6	419.1	210.6

(令和3年「理科年表」から作成)

太平洋側の気候・・・夏の気温が高い。
夏の降水量が多い。
.....あ

瀬戸内の気候.....夏の降水量が少ない。
.....い、う

中央高地の気候・・・夏・冬の気温が低い。
.....い、え

日本海側の気候・・・冬の降水量が多い。
.....え

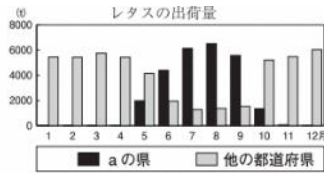
他と比べて、極端に高い(低い)気温や降水量が、手がかりとなります。

(答)い

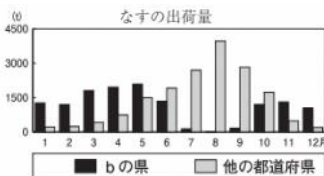
ポイント

資料Ⅳをもとに、「レタス・・・中央高地での抑制栽培」、「なす・・・太平洋側での促成栽培」を想起し、出荷時期をそれぞれ比較して、特色を読み取ろう。

[2] a、b 両県の出荷時期と他の都道府県の出荷時期をそれぞれ比較する。



他の都道府県のレタスの出荷量が減る5～9月にa県の出荷量が増える。



他の都道府県のなすの出荷量が減る10～6月にb県の出荷量が増える。

(答) 他の都道府県のレタスやなすの出荷量が少ない時期に、多く出荷している。

5

下のカードは、健太さんと涼子さんの学級で、班ごとに現代社会の課題に関するテーマを決め、調べた内容の一部である。カードをみて、各問に答えよ。

やや難

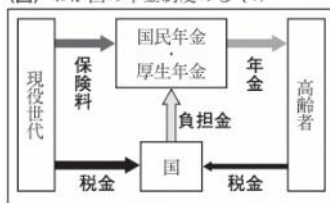
3年生の
学習内容
です。

3班 テーマ「今後の社会保障制度のあり方」

少子高齢化の進展は、⑤わが国の社会保障制度にも影響を与えている。今後は、幅広い世代で負担をわちあっていくことが求められている。

問5 涼子さんは、下線部⑤の内容について、年金制度に着目し、資料を集めた。今後も図に示される制度が維持されると仮定した場合、資料Ⅳから予想される、わが国の年金制度の課題とその理由を、図と資料Ⅳから読み取って書け。

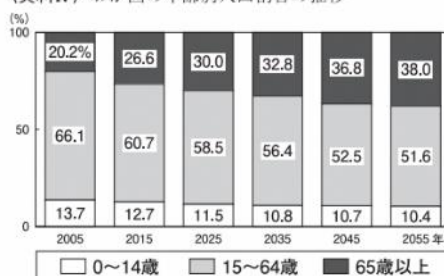
〈図〉わが国の年金制度のしくみ



※現役世代は15～64歳を、高齢者は65歳以上を示す。

(厚生労働省ホームページ等から作成)

〈資料Ⅳ〉わが国の年齢別人口割合の推移



※2025年以降の数値は、予測値を示す。

(国立社会保障・人口問題研究所ホームページから作成)

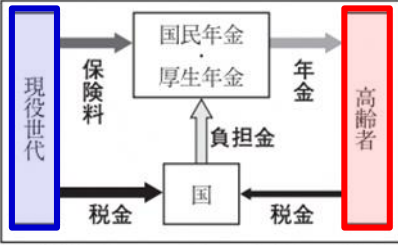
次のように解きます。



図の矢印の向きに着目し、国の負担金以外は、現役世代が支払う保険料が、高齢者に年金として支払われていることを想起しよう。

[1] 図から年金制度のしくみを想起し、「現役世代」と「高齢者」の二つの立場を見出す。

(図) わが国の年金制度のしくみ



※現役世代は15～64歳を、高齢者は65歳以上を示す。

(厚生労働省ホームページ等から作成)

【公的年金】

現役世代が納めた保険料を、そのときの高齢者などに年金として給付する仕組み。

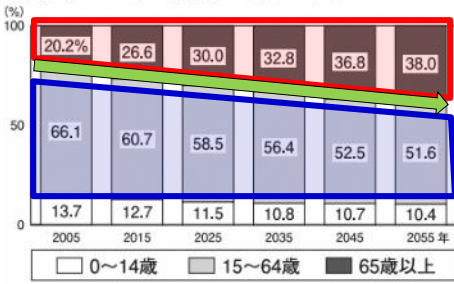
現役世代が
保険料を納める

高齢者が
年金を受け取る



[2] 資料IVから「現役世代」「高齢者」の人口割合の推移を比較し課題を考える。

(資料IV) わが国の年齢別人口割合の推移



※2025年以降の数値は、予測値を示す。

(国立社会保障・人口問題研究所ホームページから作成)

2005年から2055年(予測値)の両者の変化を比較する。

受け取る高齢者は増えていく

納める現役世代は減っていく

負担増



[3] 課題とその理由を整理して書く。

(答) (例) わが国の高齢者の割合が高くなるため、現役世代の負担が大きくなるという課題がある。

6

洋子さんは、持続可能な開発目標（SDGs）の一つについて調べ、ノートにまとめた。ノートを見て、各問に答えよ。

やや難



3年生の学習内容です。

〈ノート〉

〈図〉

13 気候変動に具体的な対策を

〈写真〉

海拔の低い国や地域の中には、近年、写真のように、満潮や高潮による沿岸の浸食が問題となっているところがある。

（図、写真は、国際連合広報センターホームページ等から引用）

〈メモ〉

経済発展に伴って、〔ア〕と考えられる。 → 対策が行われないと、写真の状況は、さらに深刻化するおそれがある。 → 自分にできる具体的な対策を考える必要がある。

問2 洋子さんは、メモの下線部について調べ、考えたことをまとめた。

〔イ〕には、下の資料Vから読み取れることを書け。また、〔ウ〕には、あなたができるところを書け。

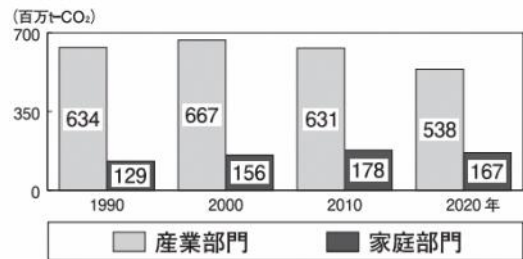
政府が、資料IVのような取り組みを行う意義は、資料Vから、1990年に比べ、2020年には〔イ〕という課題を解決することにある。資料IV、Vから、今の私にできることは、〔ウ〕ことだ。

〈資料IV〉 政府が推奨する取り組みのロゴマークと内容

- インターネットで、各家庭の二酸化炭素排出量や排出の原因を調べることができる。
- 専門の診断士から、各家庭に応じた二酸化炭素排出削減の対策についてアドバイスを受けられる。

（環境省ホームページから作成）

〈資料V〉 わが国の部門別二酸化炭素排出量の推移





次のように解きます。

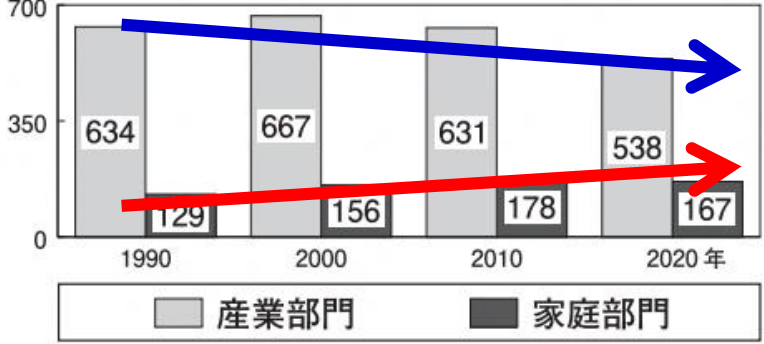
ポイント

[イ]には、二酸化炭素排出量についての課題が入ります。資料Vの産業部門と家庭部門を比較し、二酸化炭素排出量を減らす上で、今後どちらに課題があるのかを読み取ろう。

[1] [イ]にあてはまる内容は、2020年の課題である。資料Vの産業部門と、家庭部門のどちらに課題があるかを読み取る。

〈資料V〉わが国の部門別二酸化炭素排出量の推移

(百万t-CO₂)



(国立環境研究所ホームページから作成)

産業部門は、この30年で二酸化炭素排出量が減る傾向にあるといえる。

家庭部門は、この30年で二酸化炭素排出量が増える傾向にあるといえる。



(答)(例) 産業部門の二酸化炭素排出量は減少しているが、家庭部門は増加している

[2] [ウ]にあてはまる内容は、二酸化炭素排出量削減に向けて、今の私に「家庭」でできることを書く。

(答)(例) 家庭で節電をこころがける